

『学校教育全体を通してのピア・サポート』

藤枝市立青島中学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	あいさつ運動 教科係ファイルの説明（3年→1年）	年度初めの学年集会 ・1年間の友達との関わり ・エンカウンター	職員会議 （共通理解）
5月	生徒大会（前期） ・よりより青中を目指して ・各専門委員より提案	目指す授業像・合唱像	
6月	団決め集会（Zoom） ピア・サポート学活		
7月	全校道徳	体育大会に向けて ・スローガンの決定 ・練習計画の立案 ・縦割りでの種目練習に向けて	
8月	結団式		
9月	合唱コンクール		
10月	体育大会	体育大会振り返り	
11月	後期生徒大会 ・より良い青中を目指して		
12月	学校保健委員会（保健専門員会）	「レジリエンス」	教育課程反省
1月	交歓合唱第1弾		実践報告
2月	交歓合唱第2弾 3年生への応援メッセージ		次年度計画
3月	3年生を送る会		職員会議

1 本校のピア・サポート

ピア・サポートを推進するために何か特別な活動を行わなければならないという意識を持つのではなく、日常的なピア・サポートを取り上げ、意識できる環境をつくっていきたいと考えている。そのため、縦割り集団を積極的に活用して、様々な活動に縦割り集団で参加する機会を設けた。また、授業や日常生活でも、仲間との支え合いを通して、一人で取り組むと難しいことでも仲間と取り組むことで、達成感を感じたり、仲間の良さを認識したりできる場面を意図的に設定している。特に道德の授業では、自分の感じたことを表現できなかった生徒も仲間の感じたことを聞くことによって、考え方や価値観の多様性を感じさせたい。

2 特徴的な活動

(1) ピア・サポート学活 <提言5>

縦割り集団を利用して、レクリエーションなどを行った。一つの会場に全員が集まれないので、1クラスを3つのグループに分け、1年・2年・3年の教室に異学年集団が集まって親睦を深めた。1年生は先輩たちと接することに緊張していたが、上級生とレクリエーションをしたことで「上級生は優しかった」という感想を持つ生徒が多かった。この学活があったことによって、体育大会での活動にスムーズに移ることができた。

(2) 全校道德 <提言1>

「わたしのせいじゃない」という絵本を用いて2回に分けて道德を行った。題材が、いじめから環境問題にまで発展するものである。1回目はクラスでいじめを題材にして考え、2回目は縦割りの3学年を混ぜた集団で環境問題を題材に考えた。いじめを題材にしたときには、1年生も自分の考えなどを述べていたが、環境問題に関わる写真が出てきたときには上級生の知識と考えに驚く生徒が多かった。全校道德を通して、上級生から多くを学ぶことができ、良かったという感想があった。

(3) 交歓合唱 <提言4・7>

合唱活動は年間を通して実施したいものである。しかし、コロナ禍で、以前やっていた2学年が1つの教室に行って合唱を披露してアドバイスをしあう活動は難しい状況である。今年度は、縦割り集団の3年生のクラスに1・2年生の代表が行き3年生の日頃の合唱活動を見学してきた。3年生のクラスに行くことができなかった生徒たちはクラスのTeamsに挙げられた動画を見た。3年生の歌声と練習態度を見て、自分たちの日頃の合唱活動を振り返ることができた。2月には、1・2年生で交歓合唱を行い、各教室や廊下で、各パート別に分かれて実施する予定である。

(4) 授業で <提言6>

本校では、普段の授業の中でもピア・サポートを位置づけている。例えば、英語の授業では、英語は単語や文型を覚えるのが苦手な生徒は、英語に対して苦手意識を持ちやすい。確かに覚えなければ前に進まないのだが、覚えてしまえば英語はできることを教えたい。そこで、各班で英語が苦手な生徒にもわかるように教科書の本文を説明し、自分の班の担当の英文がわかるようになったら、他の班の人に1人で教えに行く活動を設けた。教師ではなく同じ立場の生徒から教えてもらうので、わからないことはすぐに聞け、楽しく英語が学べた様子であった。

3 本年度の成果と来年度に向けて

本校は生徒数が多く、コロナ禍で何かの活動を行うにしても1つの場所に全員が集まることは難しい。しかし、今年度は、場所を分ける・ICTを利用するなどして方法を工夫したことで様々な活動ができたと思う。

現状でも日常的にピア・サポートができていますが、年間を通して教師だけでなく生徒もピア・サポートを意識して生活するために、年度当初にピア・サポートとはどういうものなのかを生徒と話す時間を設けたい。それにより、生徒の思いを大切に、柔軟に対応できる環境を整えていきたい。